



平成21年2月12日

各位

株式会社アルプス技研
IR・広報室平成20年12月期(平成20年1月1日～平成20年12月31日)業績の概況ならびに
平成21年12月期(平成21年1月1日～平成21年12月31日)業績と配当予想について株式会社アルプス技研の平成20年12月期(平成20年1月1日～平成20年12月31日)業績概況につきまして下記
ご説明申し上げます。

【Ⅰ】平成20年12月期(平成20年1月1日～平成20年12月31日)連結業績

連結業績の主要数値(金額は百万円未満切捨て、パーセントは小数点第二位四捨五入)

	当 期(平成20年)		前 期(平成19年)比
	アウトソーシングサービス事業	222億4,000万円	3億1,100万円増、1.5%増
売 上 高	そ の 他 事 業	2億8,200万円	2億7,600万円減、49.5%減
	合 計	225億2,300万円	5,000万円増、0.2%増
営 業 利 益		16億4,000万円	3,000万円増、1.9%増
経 常 利 益		16億8,900万円	1億1,200万円増、7.1%増
当 期 純 利 益		9億3,000万円	2,800万円減、3.0%減

(注:売上高は事業ごとに百万円未満を切捨てていますので、事業の売上高と合計売上高は合致していません。)

当期(平成20年通期)連結売上高は、アルプス技研のものづくり事業などの「その他事業」の縮小等により連結の「その他事業」売上は前期(平成19年通期)比2億7,600万円減、49.5%減となりました。一方国内における技術者派遣業の堅調さに支えられた「アウトソーシングサービス事業」売上は、10～12月にかけて予想以上の派遣稼働時間減による売上の急激な失速(前年10～12月比△6.1%)がありましたが、前期比3億1,100万円増、1.5%増となり、連結売上高は225億2,300万円と0.2%ながら増収となりました。

利益面におきましては、「アウトソーシングサービス事業」に比べ利益率が低かった「その他事業」規模が縮小しましたので、営業利益は前期比1.9%増となりました。また、前期営業外費用に発生していた持分法投資損失が、平成20年2月に対象会社を売却した関係で当期は発生しなかったため、経常利益は前期比1億1,200万円増、7.1%増となりましたが、税負担増によって当期純利益は、前期比2,800万円減、3.0%減となりました。

【Ⅱ】平成20年12月期(平成20年1月1日～平成20年12月31日)個別(アルプス技研)業績

(1) 個別(アルプス技研)業績の主要数値(金額は百万円未満切捨て、パーセントは小数点第二位四捨五入)

	当 期(平成20年)		前 期(平成19年)比
	アウトソーシングサービス事業	188億5,600万円	5億1,600万円増、2.8%増
売 上 高	そ の 他 事 業	7,500万円	2億2,200万円減、74.7%減
	合 計	189億3,100万円	2億9,400万円増、1.6%増
営 業 利 益		16億5,800万円	7,700万円増、4.9%増
経 常 利 益		17億2,600万円	7,700万円増、4.7%増
当 期 純 利 益		9億6,200万円	4億6,900万円増、95.3%増

(注:売上高は事業ごとに百万円未満を切捨てていますので、事業の売上高と合計売上高は合致していません。)

モノづくり事業の縮小により「その他事業」の売上高は前期比74.7%減となりましたが、総売上高の90%を占める技術者派遣業の堅調さ(前期比3.2%増)に支えられた「アウトソーシングサービス事業」売上が、前期比2.8%増となり当期個別売上高は前期比2億9,400万円増、1.6%増となりました。

「アウトソーシングサービス事業」に比べ利益率が低かった「その他事業」の規模が縮小した反面、派遣稼働人数増や派遣単価改定等による増益要因があり、営業利益、経常利益、当期純利益ともに増益となりました。

株式会社 アルプス技研

(2) 売上高上位 100 社による主要業種別売上高構成(売上高合計の 81.4%)

(金額は百万円未満切捨て、パーセントは小数点第二位四捨五入)

	売上高	前期比	売上高構成比	
			当期	前期
自動車(完成車)	12億3,700万円	16.7%増	8.1%	7.1%
自動車機器・部品、ナビ・オーディオ	27億300万円	14.9%減	17.7%	21.4%
精密機器	37億6,900万円	9.5%増	24.7%	23.1%
家電	22億4,200万円	20.2%増	14.7%	12.5%
半導体(含む製造装置)	19億2,900万円	0.1%減	12.7%	13.0%
通信	3億1,600万円	36.3%減	2.1%	3.3%
ソフト	5億9,600万円	1.4%増	3.9%	4.0%
その他(工作機械他)	24億4,500万円	5.9%増	16.0%	15.5%
100社合計	152億3,900万円	2.5%増	100.0%	100.0%

(3) 派遣稼働率、派遣稼働時間、派遣単価

	単位	全派遣技術者平均		除く新卒派遣技術者	
		当期	前期	当期	前期
稼働率	%	93.5	94.5	96.1	96.1
稼働時間	時間/1ヶ月	174.4	177.7	174.8	178.1
単価	円/1時間	3,681	3,627	3,730	3,658

当期業種別売上高においては、自動車部品メーカーが2桁減となりました。また前期(平成19年)に旺盛でありました半導体向け売上が、4月以降減収傾向に陥ったことも大きな特色でした。しかしながら当社における3大顧客業種である自動車(完成車)、家電、精密機器向け売上は(当期でみる限りは)好調で、この3業種向け売上合計が100社合計に占める割合は42.7%から47.5%になりました。また10月以降の派遣稼働時間は全業種に亘って前期より大きく減少しました(前年同期比10.7時間/1ヶ月減)。これは暦日稼働日数の減(2日)に加え、顧客サイドによる労働時間の短縮徹底も要因になっております。

【Ⅲ】次期(平成21年1月1日～平成21年12月31日)の業績ならびに配当予想について

当社は常用雇用型技術者派遣事業を主体としており、派遣先も製造現場ではなく、比較的景気の好不況の影響を受けにくい製品の開発・設計分野を得意分野としております。しかしながら、製造業の顧客におきましては、未曾有の経済悪化に見舞われ残業抑制や一部の開発プロジェクトの延期・凍結などの動きが拡がっております。つきましては現段階では、中間期ならびに通期の業績予想を下記のとおりとさせていただきます。

配当予想につきましては、①連結ベースでの配当性向50%を目処とする、②業績の良し悪しに関わらず、年20円/株は堅持するとの基本方針でありますので、②により年20円/株とさせていただく予定であります。

なお業績予想と実際の業績等は諸般の情勢変化によって異なる場合があります。

(金額は百万円未満切捨て、パーセントは小数点第二位四捨五入)

平成21年12月期第2四半期(平成21年1月1日～6月30日)業績予想

	連 結		個 別(アルプス技研)	
	中間期予想	[前年同期比]	中間期予想	[前年同期比]
売上高	91億4,700万円	22億4,000万円減、19.7%減	74億8,100万円	19億400万円減、20.3%減
営業利益	△4,600万円	8億100万円減、—	7,200万円	6億4,500万円減、90.0%減
経常利益	△2,400万円	8億400万円減、—	1億1,000万円	6億5,200万円減、85.6%減
当期純利益	△1,400万円	4億8,600万円減、—	1,400万円	4億3,200万円減、96.9%減

平成21年12月期(平成21年1月1日～12月31日)業績予想

	連 結		個 別(アルプス技研)	
	通 期 予 想	[前年同期比]	通 期 予 想	[前年同期比]
売上高	183億300万円	42億2,000万円減、18.7%減	147億7,700万円	41億5,400万円減、21.9%減
営業利益	1億9,400万円	14億4,600万円減、88.2%減	2億4,800万円	14億1,000万円減、85.0%減
経常利益	2億3,500万円	14億5,400万円減、86.1%減	3億1,300万円	14億1,300万円減、81.9%減
当期純利益	1億3,700万円	7億9,300万円減、85.3%減	1億3,300万円	8億2,900万円減、86.2%減

以上